

令和3年度

滋賀県立大津清陵高等学校（通信部） 学校評価

本年度の重点目標

- ・基礎学力の定着・伸張を図るとともに、「読み解く力」を育む。
- ・社会で自立できる人間の育成を図る。

領域	重点評価項目	中間評価(10月)	総合評価(3月)	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	教育方針や教育目標、教育活動に関する説明を適切に行っている。	A	A	B
	単体制の良さを活かした学校経営に取り組んでいる。	A	A	B
2 学習指導	基礎・基本の定着を目指した学習指導に努めている。	A	A	A
	わかりやすい面接指導や達成感のあるレポート作成に取り組んでいる。	A	A	B
3 生徒指導	生徒に対して、丁寧にもた親身に対応している。	A	A	A
	交通安全のルールを遵守する指導や防災意識の高揚に努めている。	B	B	B
	いじめの未然防止と早期発見に努め、適切な指導を行っている。	B	A	B
4 進路指導	進路資料・相談体制を整備し、希望に応じた進路指導に努めている。	A	A	B
	進路情報を迅速・確実に生徒に提供している。	A	B	C
5 特別活動等	豊かな人間性の育成を目指した特別活動に取り組んでいる。	A	B	B
	社会性を身につける教育活動に努めている。	A	A	B
6 学校図書館	学校図書館が利用しやすいように取り組んでいる。	C	B	C
	新着情報の案内など、読書に親しむ指導に努めている。	B	B	C
7 保健・安全指導	生徒の健康管理と病気の予防に努めている。	A	A	B
	生徒の事故・怪我・病気等への対応を適切に行っている。	A	A	C
8 人権教育	すべての人の人権を尊重する観点で教育活動を行っている。	A	A	C
	特別活動などを活用し、人権意識を高める指導に取り組んでいる。	A	A	C
9 環境教育	ゴミの分別をはじめとした環境教育に取り組んでいる。	A	A	B
10 事務・管理	文書管理を適切に行っている。	A	A	B
	施設・設備の安全点検に努めている。	A	A	B
11 その他 学校の取組み	生徒の興味・関心や進路希望等に対応して、ガイダンスや指導を充実させている。	A	A	B
	全校職員が積極的に生徒を把握し、指導に取り組んでいる。	B	A	B

(注)・評価表の見方： 6月 学校の教育目標に基づいた重点評価項目の公表

10月 中間評価（自己評価）の公表（8月までの教育活動に対する中間評価）A B C Dの4段階評価で示す。

3月 総合評価（自己評価・学校関係者評価）の公表（年間の教育活動に対する総合評価）A B C Dの4段階で示す。

・自己評価は教職員による評価。学校関係者評価は、保護者・学校評議員等より構成された評価委員会等が自己評価の結果について評価することを基本として行う評価。

・A B C Dの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合（達成度80%以上）はA、おおむね達成できた場合（達成度60%以上80%まで）はB、□

あまり達成できていない場合（達成度40%以上60%まで）はC、達成できていない場合（達成度40%未満）はDとする。

学校のURL : <http://www.ohtsuseiryo-t.shiga-ec.ed.jp/>

令和3年度アンケート結果のまとめ

(学校独自の分析、次年度に向けての改善策等)

滋賀県立大津清陵高等学校(通信部)

- 1 アンケート用紙に記入して提出または郵送する従来の方法では、生徒や保護者からのアンケート用紙の回収がなかなか難しいことが従来からの課題であった。そのため、アンケートの回収率UPを目指し、昨年度はアンケート用紙のみから、スマートフォンからも回答できるFormsを利用したインターネットによる回答を併用しての実施を試みた。しかし、今年度も同様にインターネットによる回答を併用したが、生徒や保護者の回収率が上がらなかった。教育振興会役員会で保護者の方々からは、スマートフォンからも回答できる方法が良いとの意見をいただいた。「スマートフォンだから、後でも直ぐできると思っていると忘れてしまう」との意見もあったので、より多くの回答が得られるように工夫して取り組んでいきたい。
- 2 保護者・生徒のアンケート結果を踏まえ、学校評議員会にて学校関係者評価を行ってもらい、11領域22項目のうち2項目でA評価、14項目でB評価、6項目でC評価となった。昨年度は、A評価が10項目、B評価が10項目、C評価が2項目であった。

進路指導領域で1項目、保健・安全指導領域で1項目、人権教育領域で2項目 合計4項目で評価がB評価からC評価へと下がった。中でも人権教育領域の「すべての人の人権を尊重する観点で教育活動を行っている」項目は、昨年度A評価からC評価となった。評価が全体的に下がった要因の一つは、母数が少ない上に「分からない」の回答が多かったことが数値の上で評価を下げたことによると考えられる。

通信制課程で最も重要かつ基本事項であり、学校目標にもあげられている「基礎・基本の定着を目指した学習指導や充実感のあるレポート作成」という重要な観点において、生徒や保護者からの評価が高く、通信制の特徴を踏まえた学習指導であると評価をいただきA評価であった。
- 3 通信制の特徴から、生徒が一同に会する機会や、クラスの生徒が全員出席するHR等がないため、全生徒・保護者対象に周知することや回答を求めることが難しい現状がある。基本的に、郵送による方法が中心で、HPでも情報提供することで周知に努めている。しかし、回収が必要であるアンケート用紙の場合は、生徒が登校時に保護者のものと合わせて提出するかレポート送付時に同封するかによるが、スクーリング日が限られていることから回収率を大幅に向上することは難しいと考えられる。インターネット環境があれば、アンケートにアクセスしやすく、簡単に回答できるように、QRコードを添付して案内を送付している。しかし、前述1の意見のように後回しにせずアクセス、回答、送信と行動に繋がられるような工夫が必要であると考え。
- 4 限られたスクーリング日に、個々の生徒の計画に合わせて登校するのが通信部の特徴であり、生徒(特に勤労青少年である生徒)や保護者ともに、学校の教育活動に関わる機会が限られている。これが、例年生徒、保護者ともに多くの項目で「わからない」と答える割合が高い要因であると考えられるが、今年度も非常に高かった。

今後もコロナ禍での教育活動が続く中で、その影響を受ける可能性のある保健・安全指導領域並びに人権教育領域項目で評価が下がったと考えられる。特にC評価となった4領域6項目については、継続して努力し、より高い評価を得られるよう業務の改善・改革に向けて努めていきたい。

更に、基本的なコロナ感染防止対策を心掛け、安心・安全な教育活動の実施に努め、教員からの積極的な働きかけや前向きな取組を来年度へ向けての課題とし、更に、学校からより多くの発信をすることに取り組みたい。